

## I. 参加した北方領土問題に関する事業について

### 5. 北方領土問題関連事業に参加して気付いたこと (Q5)

「北方領土問題に対する理解が深まった」、「北方領土問題は簡単には解決できない問題であることが理解できた(深刻・重大な問題であることが理解できた)」、「北方領土問題に関する認知・関心度が低い」といった意見が寄せられた。中でも、北方領土・北方領土隣接地域への訪問や元島民の講話など、実際の体験を通じた発見が多く見受けられた。

Q5. 北方領土問題に関する事業に参加してみて、分かったことや気付いたことがあれば、どのようなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

意見	件数
北方領土問題に対する理解が深まった	222
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にこの目で北方領土を見て、現地の人のお話をお聞きしたことによって、北方領土問題によりくちんと触れることができたと思います</li> <li>・法的に国際的に自国のものであることが明らかでも、返還されていないことがよく分かった</li> <li>・北方領土で、今現在、起こっている問題や、状況に対する理解をより深めることができた</li> <li>・当事者の方のリアルな声や、島を目の前で見たこと、また、北海道の元島民の方々の想いを聞いたことで、調べるのと実際に足を運ぶのでは全然違うなと感じた</li> <li>・北海道へ行って、直接元島民の方からお話を聞いたり、北方領土に関する資料を見て、学校の地理の授業で習った時よりも、より詳しく分かりました</li> </ul>	
北方領土問題は簡単には解決できない・深刻・重大な問題	64
<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後時間が経過した現在では領土返還は現実的ではないと感じた</li> <li>・新しい施設が次々と建っていたり、移住しているロシアの人が多く既にロシア化されている感じがした</li> <li>・北方領土に住む人々にも生活があって、それを日本人が全て壊してよいわけではないと思った</li> <li>・返還された後のその土地の活用や現地の人々がどうなるのかななどの課題点を解決できるのか疑問を抱いた</li> </ul>	
北方領土問題における認知・関心度について	63
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと北方領土問題を知ってもらえるよう自分たち（若者）が情報発信や活動をしなければならない</li> <li>・北方領土問題について認知度や関心度が低い</li> <li>・北方領土問題について認知度や関心度を高くする仕組みや工夫が必要</li> <li>・事業に参加するまでは北方領土問題について他人ごと、過去のものだと思っていた</li> </ul>	
北方領土問題を自分のこととして考える、日本全体の問題として考える、身近な問題に感じた	58
<ul style="list-style-type: none"> <li>・離れた土地ではあるが、決して、自分たちに関わりのないものではなく、“身近なこと、問題”として捉えるべきものだと思います</li> <li>・正しいことを知らない人がいっぱいいると思ったので、もっと北方領土問題をみんなが自分のものとして考えるべきだと思います</li> </ul>	
現地の人々や領土問題に関わる人々、関心を持つ人たちとの交流（ポジ意見）	56
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人だからロシア人の方々に冷たく接されるかと思ったらそんなことはなくて、温かい人たちですぐに同世代の子と友達になれた</li> <li>・スピーチの参加者や、同世代の人、先生、政府の方など、色々な人の話や意見を聞いておもしろかったし、参考になった</li> <li>・たくさんの方が北方領土について主張し、さまざまな意見や主張が聞けて、北方領土についての理解が深まりました</li> </ul>	
日本、ロシア双方にとってより良い解決策を探ることが大切	28
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア側と日本側で意見は違いますが、実際は日本のものだから、平和的に返還してほしいと思った</li> <li>・北方領土問題の解決は簡単ではなく、また、今、北方領土に住むロシアの方々も追い出すでは意味がない。話し合いで両国の妥協点を見つけながら解決しなくてはいけない</li> <li>・返還要求において、既に居住しているロシア島民の立場も考えて交渉しなければならないことに気づかされた</li> </ul>	

## I. 参加した北方領土問題に関する事業について

改めて北方領土は日本へ返還されるべきだと思った	13
<ul style="list-style-type: none"> <li>・元島民の高齢化が進む中、1日でも早く領土が返還されて、1人でも多く故郷に連れていってあげられるように、若者が頑張っていかなきゃいけないと強く思いました</li> <li>・北方領土問題は、日本にとって大切なもので、返還したいと強く思っている人もたくさんいるので、小さなことでも続けて、いつか返還したいと思った</li> <li>・日本にとって、大事な問題だと思った。北方領土は日本に返すべきだと考えました</li> </ul>	
現地の人々や領土問題に関わる人々、関心を持つ人たちとの交流（ネガ意見）	12
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生と主催してくださった方々を含む大人の方々との間の、北方領土問題に対する考え方にギャップを感じました。協会の方や語り部の方からは、北方領土問題を風化させないために後継者を残そうという思いがひしひしと伝わってきました。しかし、実際に参加してみると学生達は自国の問題ではあるけれども客観的でとても冷めていると思いました</li> <li>・日本の領土であるとしてわざわざ訪問しているのに、在住のロシア人の方々は北方領土がロシアのものであることを直接、間接的に主張してくることが多かった</li> <li>・北海道の方は領土問題に対する関心が同じく領土問題を抱える島根県よりも高いと感じた。問題解決には沢山の人の力が必要だということがわかった</li> <li>・島民二世の方々が四島訪問を「ロシアに行く」と表現していて愕然とした。何のための交流事業か考えさせられた</li> <li>・人によって、モチベーションがバラバラ。それぞれの目的にあった交流にしてはどうか</li> <li>・北方四島の住民(主に学生)はあまり北方領土問題に関心がなかった</li> </ul>	
事業・活動についての評価（ポジ意見）	9
この事業に参加して良い経験、貴重な経験となった	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土は今も昔も変わらず法的根拠のもと日本の領土であるということに確信が持てました。その上で、現在ロシアに不法に占拠されていることにもっと多くの国民が関心を向けるべきだとも思いました。事実、私はこの事業に参加する前は北方領土については数ある歴史の中の一つだと思っていましたし、このように真剣に考える機会を持つことがなければここまで深い関心を持つことはなかったと感じます。とても有意義な事業でした</li> <li>・現地の方の意見を直に聞くことで、資料だけでは分からないことが知れて、よい経験となりました</li> </ul>	
事業や取組について好意的な評価	
このような取組が行われていること自体が、返還の一步になっていると思う	
領土問題についてもっと知りたいと思うようになった	8
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に元島民の方から話を聞くことができた。問題解決への強い思いを感じ、より北方領土問題に関心を持った</li> <li>・まだまだ自分は領土問題を知らない。もっと知りたいと思うようになった。この北方領土問題に関することを学んだおかげで、ロシア語を勉強したいと思うきっかけになった</li> </ul>	
事業・活動についての不満、要望	5
事業や取組についての不満	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流事業の時間が短い</li> <li>・交流会の中での活動時間が短い</li> <li>・古い世代がやっている活動というように見えてしまう</li> </ul>	
事業や取組についての要望	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土問題に関する事業でもらうペンやノートは使ってくれる人へ渡るようにしてほしい（何回も行く人はいくつも持っているのでもって）</li> <li>・事業参加時に大人と子供を混ぜることをしないのはどうしてなのかと疑問に思った</li> </ul>	
その他	7
墓石を家の土台に使われたと聞いて、とても残酷だと思った	
他の領土問題にも関心を持つようになった	